

手術検体を用いた FGFR タンパク質発現、遺伝子増幅の調査

研究概要

0.1 本研究の意義

胃がんの3~9%にFGFR2遺伝子の増幅が認められ、過剰発現及び予後悪化と関連していると報告されており、FGFR2遺伝子の増幅がある胃がんの培養細胞はFGFR阻害薬に対して感受性を示す事が報告されています。しかしながら、他のがん種での報告は限られており、乳がんにおいては稀ではあるもののトリプルネガティブ（ホルモンレセプター陰性、HER2陰性）乳がんにおいてFGFR2遺伝子の増幅を認める事が報告されています。また胆管がんや婦人科がんでもFGFR2の発現が報告されています。

本研究では、これらのがんにおいて、FGFR2発現の程度を調査する事により、FGFR2阻害薬の臨床開発に役立つ情報を提供するものであると期待しています。

0.2 本研究の目的

がんにおけるFGFR2タンパク質の発現、遺伝子増幅を明らかにすることです。

0.3 本研究の方法

2012年より2013年までに国立がん研究センター東病院で胆管がんに対する手術を施行した患者さんおよび2006年から2011年までに国立がん研究センター中央病院で婦人科がんの手術を施行された患者さんの手術時に得られた病理組織標本を用いて、がん組織におけるFGFR2発現を免疫組織染色やin-situ hybridization検査によって評価します。また、臨床病理学的特徴との関連について解析します。

0.4 研究組織

本研究は、国立がん研究センター東病院および中央病院とバイエル薬品株式会社との共同研究で行われます。

0.5 個人情報の開示等の求めに応じる方法

本研究で対象となる患者さんには本研究専用に別途割り当てられた研究番号を用いて管理しますので、いかなる個人情報も院外に出ることはありません。個人情報の開示や、その他本研究に関してお聞きになりたいことがありましたら、いつでも下記の連絡先まで申し出てください。

0.6 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

国立がん研究センター東病院 先端医療開発センター 臨床腫瘍病理部

落合 淳志、久保木 恭利

FAX : 04-7133-1111 / TEL : 04-7134-6865